

**No.17**

柏市政や柏市の出来事についてご報告します。

山下洋輔新聞

柏市議

無所属

37 歳

ボランティア募集！

山下洋輔は、クリーンな政治を目指しています。皆様のお力が必要です。この新聞を配布して下さる方を募集しています。散歩がてら、ご近所だけなど、何枚でもかまいません。地域をよりよくするため、一緒に活動しましょう。

2015年10月10日

市議会議員は、どんな活動をしているか。どのような考えで、活動しているか。報告していきます。

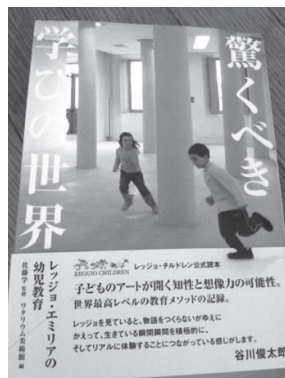
○ 地域共生型デイサービス－高齢者も、子どもも、障がい者も一緒に

高齢者や障害のある方、子どもに対して同じ施設内で福祉サービスの提供を行う「富山型デイサービス」が注目されています。高齢者と子どもの異世代交流により、互いに心身両面に良い影響を与える効果も期待されます。利用者にとっては、居住地の近くでサービスを利用できることもメリットになります。地域コミュニティを築くことにもつながります。

少子高齢化の中で、保育園を地域共生型で開設することは理にかなっています。今は保育園も学童も不足ですが、いずれ余ると予想され、新設に踏み切れないことも予想されます。地域共生型ですと、高齢者や障がいのある方にも必要な施設なので、保育や学童のニーズにも応えていくことができます。

柏市で「富山型デイサービス」の可能性について議会質問したところ、希望する事業者が出れば検討したいとのことでした。縦割り行政を打破するきっかけにもなると期待できます。

○ 柏市全体で質の高い幼児教育を



柏市は、待機児童ゼロの次の段階として、「質の高い幼児教育」を打ち出す子育て支援に移行すべきだと考えます。

(1) 幼児教育がその後の人生に大きな影響を与えること、(2) 幼児教育への公的投資は非常に収益率が高いこと、(3) 幼児教育は、将来の所得や健康を向上させ、生活保護率や逮捕率が低くなるという調査結果が出ていることが、2000年にノーベル経済学賞を受賞したヘックマン氏によって明らかにされています。

幼児教育の重要性は認識されていますが、現在の日本では、幼児教育は家庭まかせになっています。熱心なご家庭は素晴らしい幼児教育を受ける一方で、幼稚園や保育所に通わせることが困難な家庭が増えてくるのが心配されています。教育機会の保障という面からも、幼児教育は必要な政策だと考えています。

成功している教育実践は、地域コミュニティを築き、豊かな地域社会を実現させています。教育制度の改革が地方主権を推し進めると言われるのはそのためです。教育は、社会や人々の未来にとって、堅実な投資なのです。

【写真】市をあげて、素晴らしい幼児教育に取り組むイタリアのレッジョ・エミリア市の事例

山下洋輔のプロフィール

1978年4月生まれ。37歳。

東葛飾高校卒業。早稲田大学教育学部卒。同大学院修士課程修了後、土浦日大高校にて教諭。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得後退学。

「柏まちなかカレッジ」学長として市民大学を主宰し、地域の教育・文化を盛り上げている。

【趣味・特技】歴史散策、剣道（三段）、絵画、カポエイラ、三線、バイク、JAZZ鑑賞

【家族】妻、長男（2014年生まれ）

※タイトルのイラストは、『ひとりごはんの背中』（講談社）で著者の能町みね子さんの取材を受け、描いて頂いたものを使用しています。

柏まちづくり倶楽部開催（毎月最終木曜日 19時～）

参加ご希望の方は、ご連絡ください。連絡先は裏面に記載しています。

○ 山下洋輔、9月議会での質問。

山下の質問

柏市の答弁

教 育	山下の視点 フリースクールの制度化に向け、国会で議論されている。フリースクールの良さを公教育に取り込み、柏市内の小中学校を充実させ、教育機会の保障と公教育を守るべき。	
	フリースクールの位置づけをどう考えるか？	不登校支援の多様な選択肢として有効だが、学校教育のあり方については慎重な議論が必要。
	山下の視点 国会で小中一貫教育が制度化された。柏市は小中連携に取り組んできたが、今後の方針を定める機会である。	
	小中一貫教育についてどう考えるか？	学校統廃合の問題にも関わるので、慎重に考えたい。
福 祉	山下の視点 イタリアのレッジョ・エミリア市のように、市をあげて公教育として、素晴らしい幼児教育を実現させるべきである。	
	柏市で幼児教育に力を入れていくべきではないか？	もっともである。大きな改革が必要になる。
	山下の視点 かしわ市民大学設立から5年。教える側と教えられる側に別れ、対象者が限定されてきた状況が懸念される。本来の目的に戻り、見直すべき。	
	地域を知り、地域への愛着を深め、地域を創っていくような「柏学」を！	ご意見を受け止め、見直す。
ま ち づ く り	山下の視点 高齢者と子どもの異世代交流は、互いに心身両面に良い影響を与える効果も期待され、地域コミュニティを築くことにつながる。	
	高齢者、障害のある方、子どもに同じ施設内で福祉サービスの提供を行う「富山型デイサービス」を提案。	希望する事業者が出れば検討したい。
	山下の視点 公園はあらゆる市民が利用できる身近な公共施設。市内650カ所の公園は、大きな負担と可能性。市民の発想と力で運営を考えるべき。	
	市民協働で、公園の維持管理・運営を進めていく方針は？	現在でも始めている。今後は、その動きをより広げていく。
環 境	山下の視点 高齢化が進み、運転免許証返却者も増え、行政が、市民の移動を保障することが求められる。	
	交通空白地への対策とコミュニティバスなどの充実を！	時代の変化に応じ、対策を講じていきたい。
	山下の視点 豊かな自然が残る大青田の谷津田が埋め立てられている。農業のみならず自然環境保全の観点から取り組むべき課題。	
	柏市はどのような対策を取るのか？	残された谷津田を保全するよう地権者や市民団体と共に取り組む。
経 済	山下の視点 路上販売は違法であり、商業者からの指摘や流通経路の問題もある。柏駅前のイメージアップとしても、客引きやスカウトの問題と合わせ、強い姿勢で取り組むべき。	
	柏駅前の違法な路上販売を取り締まるべき。	警察やエリアマネジメント団体など関係機関と連携し、取り組む。
	山下の視点 路上でのオープンカフェや広場での屋台村は、まちを活性化させる取り組みとして有効。	
	広場での屋台村に取り組んでは？	創業支援にもつながる。保健所の手続きなどの支援も図りたい。

○ 市民の移動を保障する — 柏市内の交通空白地への対策を！



高齢化社会となり、運転免許を返上しなければならない高齢者が増えてくる中、公共交通の充実は不可欠です。人口が減少し、廃止されるバス路線も出てきます。高齢者が家にこもるのではなく、歩いて街に出ることで、医療費の削減にもつながりますし、街のにぎわいにもつながります。既存の路線バスは住宅地と鉄道駅を結んでいますが、団塊の世代が定年退職を迎え、通勤や買い物だけのニーズだけではなく、病院や公共施設などへのニーズが増えてきています。

ドイツのフライブルクの交通局でお話をお聴きし、印象に残っているのは、「市民の移動を行政が保障する」と言う姿勢です。コミュニティバスやオンデマンド交通など、柏市での交通空白地における対策は緊急の課題です。

【写真】フライブルクの交通政策を視察

山下から一言

選挙のカタチを変えることは、政治を変えることにつながると考えています。8月の市議選では、団体や組織に頼らず、政党に属さず、自分の足で歩き、政党や組織の論理ではなく、地域の皆様の声に耳を傾け、シガラミのない選挙を貫きました。

連絡先 TEL:04-7170-0668 FAX:03-6745-9416(※eFaxを使用) Mail: info@y-yamasita.com

以下、山下の活動や考えたことを報告しています。山下の日常の記録です。ご感想やご意見もお寄せ下さい。

[twitter] @yosukekayama [facebook] <http://facebook.com/yosukekayama> [HP] <http://y-yamasita.com>